

経営比較分析表（令和6年度決算）

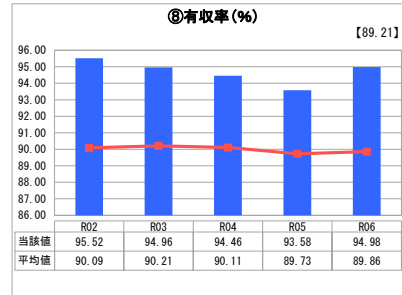
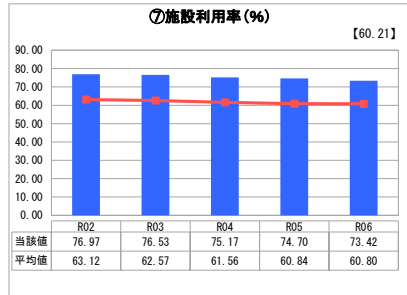
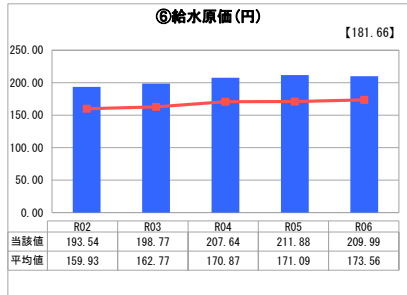
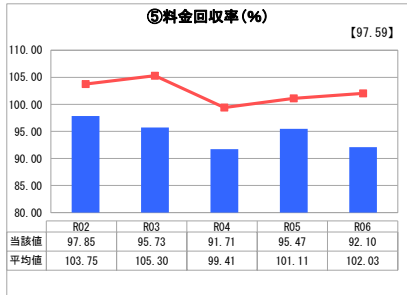
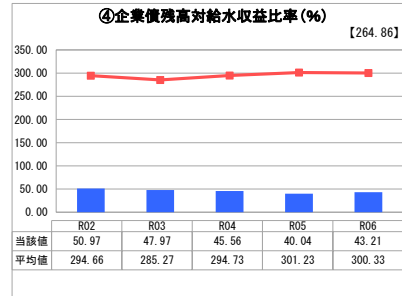
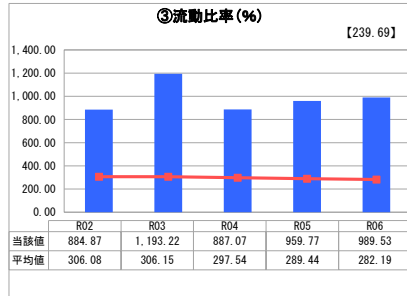
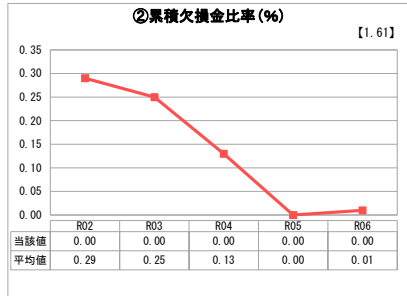
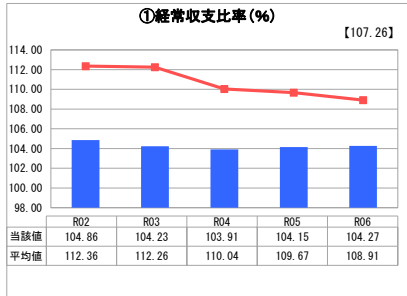
千葉県 佐倉市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	94.62	94.87	3,099	

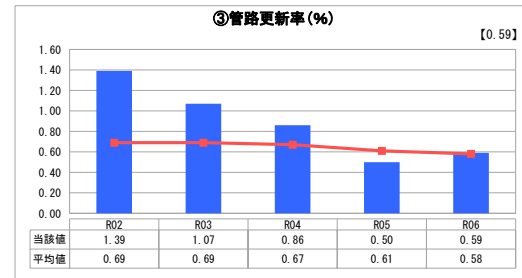
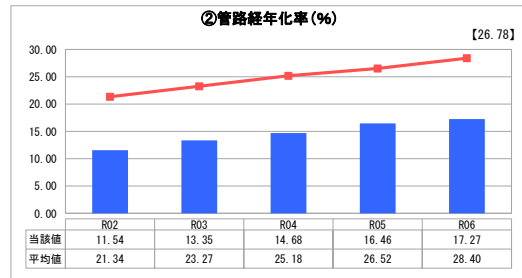
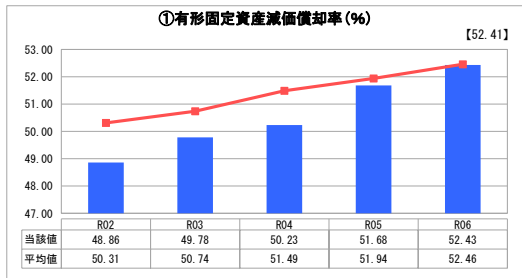
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
169,506	103.69	1,634.74
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
160,250	103.69	1,545.47

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は収益費用ともに減少し、横ばいとなったが、今後は物価高騰等による費用の増大が見込まれるため、料金改定を予定している。
 ②累積欠損金の発生はない。
 ③流動比率は類似団体と比較大きく上回っている。前年度と比べ、現金が大きく減少したものの、未払金も減少し、増加となった。
 ④企業債残高対給水収益比率
 平成22年以降、企業債の新規借入をしていなかったが、必要な水道施設の耐震化を進めていくに伴い現金が減少傾向のため、令和6年は新規借入を行った。依然として全国平均、類似団体平均よりも低い状況だが、金利が上昇してきており、現預金の残高を踏まえながら慎重に進めていく必要がある。
 ⑤令和6年度は、物価高騰対策として水道料金基本料金減免を実施したため、給水収益が下がり、結果として料金回収率は前年より低下しているが、減免の影響をのぞくと料金回収率は前年より改善している。
 ⑥給水原価は、費用が前年よりは減少したことにより、やや減額となったが、今後は維持管理費用の増大により増加していくものと見込まれる。
 ⑦施設利用率は類似団体よりも高い値だが、年々減少している。
 ⑧有収率は全国平均、類似団体平均、前年度を上回っており、ロスを低く抑えて収益化できている。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率②管路経年変化率
 近年、耐用年数を迎える管路は、市内の開発が盛んに行われた時期に布設されており、着実に老朽化が進んでいる。
 ③管路更新率
 前年よりも改善したものの、交付金の減額、人件費及び材料費の高騰により更新延長が伸ばせないこと、管口径が大きく交通量の多い道路での工事のため、近年更新率は低下傾向である。

全体総括

令和4年度に料金改定したものの、増加傾向の費用により経常収支比率は横ばいで、料金回収率も100%を下回っている。
 施設の老朽化も着実に進んでおり、必要な施設の更新を行うため、財源に企業債の借入を再開した。
 さらに物価高騰による費用の増加、人口減少による収益の減少が続くと思われる、今後も厳しい経営状況が予想される中、水道事業を安定的に経営していくため、令和8年から料金改定を予定するとともに、定期的に適正な料金水準の検討を含め、一層効率的な経営を実践していく。